

## M02a 太陽観測衛星将来計画の国際協力構築のための NGSPM-SOT による検討

清水敏文 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所), 一本潔 (京都大学/国立天文台), 草野完也 (名古屋大学), 原弘久, 渡邊鉄哉 (国立天文台)

NGSPM-SOT (Next Generation Solar Physics Mission's Science Objectives Team) は、米国 NASA, 欧州 ESA, および日本 JAXA の国際協力で立ち上げる太陽観測衛星ミッションを検討するために、2016年7月に3つの宇宙機関の合意のもとで設立された検討チームである。NASA 指名の米国科学者4名、ESA 指名の欧州科学者4名、および JAXA 指名の日本科学者4名(清水、一本、草野、原)の計12名のチーム、および observer (渡邊)であり、3宇宙機関の co-chairs のガイダンスの元で、2017年夏に最終報告書を提出する予定で、科学的検討を進めている。本講演は、チームの日本メンバの視点から検討状況についてお話しし、2020年中盤以降の太陽観測衛星ミッションについて議論する。

2015年に戦略的中型衛星公募に提案した SOLAR-C は科学的・技術的な優位性を高く評価されたが、欧州 ESA に提案された EPIC(European Participation In Solar-C) は不採択となった。この結果、SOLAR-C 当初案は大幅な尖鋭化が求められ、日本国内では戦略的中型衛星 (SOLAR-C 尖鋭化案) の他、公募型小型衛星などを利用した観測衛星案を検討し、2020年代中盤以降の青写真を再構築しようとしている。このような状況のなか、NGSPM-SOT の活動は、3つの宇宙機関間で協力・連携する素地を科学的検討から構築し、(新生)SOLAR-C を含む次期太陽観測衛星計画の立ち上げを強くドライブする重要な検討活動である。検討前半に SOLAR-C 当初案にとらわれず太陽研究の科学目的の精査を行い、後半に重点化すべき科学目的の達成に向けた実現方法の検討を進めている。コミュニティから得た white paper 提案 33 件も科学目的の精査 (明確化や尖鋭化) に大いに役に立っている。